

### 調査活動

個体識別調査・陸上観測調査・聞きとり調査を実施。天草に生息する野生イルカの生態把握のため、基礎データを収集します。短期的結果だけでなく、長期的な変化をモニタリングし、調査の質と信頼性を高めます。集めたデータは、地域や学生らとも共有し、持続可能な観光事業の協議や環境保全事業、教育素材としても活用しています。



### 専門ガイド

イルカ調査員による乗船前レクチャーや船上でのガイド。イルカや、地域の文化・共生の歴史など学びあるエコツアーをサポート。今後は、ガイド人材養成も検討中です。

### 地域活動

天草市内の学校や地域団体等に向けて、野生のイルカが棲む海の価値や現状、そして地域や地球規模の環境課題を伝えるセミナー、ワークショップを実施しています。住民参加型の海岸清掃活動でイルカを通じてふるさと天草の魅力を知り、豊かな自然を未来へつなぐ地域を目指しています。

### 教育活動

SDGsをテーマにした講演や、天草のイルカを学ぶ授業、学生向け研修プログラムなどを開催。オンラインレクチャーにも対応。夏休み限定の子ども向け自由研究プログラムも好評です。



### メディア活動

ネットやラジオ、プレスリリースといった情報発信のほか、天草エアライン機内誌へもコラム「ここにいるから」を寄稿しています。

天草イルカ調査室

の  
取り組み



環境に配慮し、  
植物油インクを  
使用しています

人にもイルカにも優しい海の実現

天草イルカ調査室

Research  
Conservation  
Education





## イルカの聖地 天草

大小約120の島々からなる天草諸島は、有明海・八代海・東シナ海という3つの海に囲まれています。なかでもイルカの主な生息場所である天草市五和町エリアでは1990年代前半から、観光事業としてのイルカウォッチングが始まりました。海の豊かさを象徴する野生のイルカとの出会いは、それ自体が特別な体験です。とくに天草では、その遭遇率の高さや群れの大きさに衝撃を受ける方も少なくありません。

「イルカ調査室」では天草を「イルカの聖地」と捉え、さまざまな取り組みを行っています。人と野生イルカの共生が息づく、世界的にもまれな海の価値を伝えることはもちろん、地方創生を支える役割も。さらに、地球規模で差し迫る海環境危機についても向き合うべき課題とし、有識者の助言をいただきながら、調査や研究、教育プログラムを実施しています。学び育む「イルカの聖地天草」へ。イルカとの出会いがもたらす価値を最大化し、「人にもイルカにも優しい海の実現」を目指しています。



素潜り漁船のそばを、野生イルカが泳ぐ



海岸清掃活動



体全体に糸が絡み、苦しむイルカ

### イルカと人の共生

通詞島を含む二江漁港では、春の海藻や夏の赤ウニなど、折々の素潜り漁が営まれています。この一帯の素潜り漁の歴史は縄文時代からつづくといわれ、イルカと人が共生する天草ならではの風景が見られます。

## 調査活動



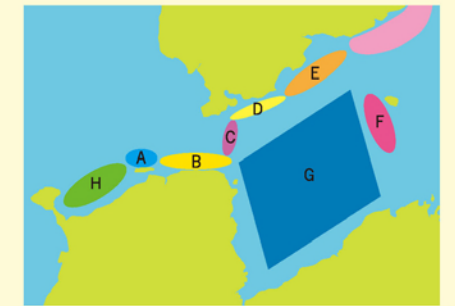
### 個体識別調査

1頭ずつ外見の特徴を調べて見わけ「個体識別」。生態調査をする上で、重要な基本情報で、写真や動画でデータを集積し、解析を行います。外見の特徴が多いほど識別の確率が高くなり、初めてのイルカウォッチングでも容易に見分けることができます。背びれだけでは識別が難しい個体もいます。また、出産やケガをしたイルカの追跡調査や行動調査なども行ないます。イルカ調査室では、2022年度の調査で背びれを主な識別部位とし、130頭の識別を行いました。



### イルカウォッチング遭遇率

天草では1990年代からイルカウォッチングが行われています。年間の平均遭遇率は約90%と非常に高く、とくに春～夏にかけてはほぼ100%の遭遇率を誇ることから、天草観光を代表するコンテンツとして、地域の経済を支えています。月別遭遇率の変化や、台風・時化による欠航率の推移、現状1時間程度とされる乗船時間の実情把握など、地元事業者の協力のもとで情報を収集し、解析。生態観光の特性を踏まえたリスクの管理や、持続可能な観光のあり方についての検討を行っています。



### イルカの行動範囲

天草のミナミハンドウイルカは、早崎海峡～有明海の「定住型」で、日中の主な行動範囲は通詞島～鬼池港の沿岸です。この一帯では、陸から1～1.5km程度の近距離で過ごすことが多く、陸にいながらイルカの姿を確認できることもよくあります。ときには、富岡半島沖に南下したり、湯島や島原港の沖合まで北上することもあります。こうしたイルカの行動変化は、季節や潮流の影響などさまざまな要因が考えられ、陸・海上から遭遇ポイントや移動ルートなどの情報を収集し、調査を続けています。





## 天草のミナミハンドウイルカの「自然生態をひもとく調査」について

「天草イルカ調査室」では、有明海に定住するミナミハンドウイルカに関する情報収集とデータベース化を図り、環境保全や、より専門的な調査・研究に役立てるため、基礎的な調査を行なっています。「個体識別調査」に加え、陸から目視で行う週3回の「陸上調査」や毎日行うイルカウォッチング事業者からの「聞き取り調査」で出現場所・時間・数・群れの状況・移動などの情報を集めます。それらのデータと潮汐や季節を照らしあわせ、行動範囲の変化や遭遇率の研究などを行なっています。



### 通詞島沖イルカ環境実態調査事業

天草市の北部に位置する早崎海峡(通詞島沖)は、豊富な魚類が集まる漁場です。野生のイルカが古来より漁業者と共生していることは世界的にもめずらしく、そうした歴史と存在自体が、本市の貴重な観光資源でもあります。この豊かな自然を後世に引き継ぐため、天草市は令和4年度から「通詞島沖イルカ環境実態調査事業」を開始し、天草漁業協同組合「天草イルカ調査室」に当事業を委託しています。

### 「イルカと共存できる環境づくり」を応援！ 企業版ふるさと納税

天草市では「イルカと共存できる環境づくり」を推進。環境保全や各種調査・研究に加え、「学びのある体験の場」として新たなプログラムの構築を目指しています。当事業にご賛同&応援していただける企業様を募集しています。



### これまでにご寄付をいただいた企業様 (令和4年度、令和5年度)

- 株式会社World Scene 様
  - アドバンスパートナーズ株式会社 様
  - 福岡トランス株式会社 様
  - 株式会社コクユー 様
  - 株式会社アバンス 様
  - 有限会社原田写真場 様
  - 株式会社あきんどスシロー 様
  - 株式会社セミテック 様
  - 有限会社吉水農園 様
  - 長崎船用品株式会社 様
- ※公表にご了承いただいた企業様のみ掲載

発行元 天草市(市民生活部市民環境課)  
 制作 天草イルカ調査室(天草漁業協同組合)  
 協力 天草市イルカウォッチング事業者の皆さま  
 監修 帝京科学大学 篠原正典





# じっくり観察してみよう！背びれで見分ける天草のイルカ

群れで生活する野生イルカの特徴を1頭ずつ調べ、見分けるのが「個体識別」です。イルカやクジラの個体識別は世界中で行われ、そのデータは生態や群れ、病気・ケガ、環境など、あらゆる分野の研究に応用されます。天草イルカ調査室では2022年度から、通詞島沖に生息する定住型のミナミハンドウイルカの調査を開始し、2023年度末までに約130頭の個体識別を行いました。



#1

れ  
い  
わ

新元号が発表された日、それがニックネーム第1号「れいわ」命名の記念日です。日本の新時代へ向けたメッセージが、天草のイルカを取り巻く状況と重なりました。「人とイルカが美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ。梅の花のように、人もイルカも明日への希望を咲かせる天草でありますように」。



#2

ト  
ラ  
イ

アジア地域で初の開催となった「ラグビーワールドカップ2019」。ベスト8の快挙を成し遂げた日本チームの活躍を覚えていますか？日本中が歓喜に沸いたトライの瞬間を思い、名付けました。背びれの上部内側をよく見ると、ラグビーボールの楕円を思わせるカットラインが入っています。



#4

ピ  
ー  
ス

2020年(令和2年)2月2日、22時22分に命名発表を行ったのが「ピース」です。名前の由来はもちろん、「2」がたくさん並んだこと。背びれのちょうど真ん中にシャープな三角のカットが見られ、平和を意味するピースサインを彷彿とさせます。船上からも比較的、判別しやすいイルカで2022年に出産しました。



#9

ピ  
ッ  
ク

東京オリンピックの開催年2021年に名付け、その年の8月29日、背びれの先端が1/3ほどちぎれているのに気がつきました。幸い傷口は1ヶ月ほどで治癒したものの、再生することはありません。この損傷の原因は特定できませんが、野生のイルカをとりまくさまざまなリスクにも意識を向けていきたいところです。

## 早崎海峡・通詞島沖に定住する、見わけやすいイルカたち



せんす 2019年出産

#3



おとあ

#6



ぶち 2023年出産

#7



タイガー

#10



2023年出産

#11



#24



#27



#29



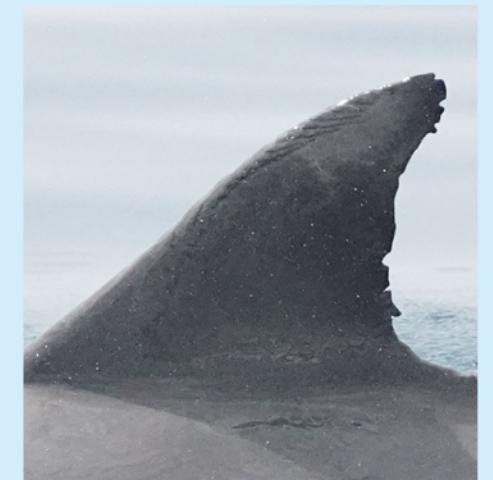
#30



#31

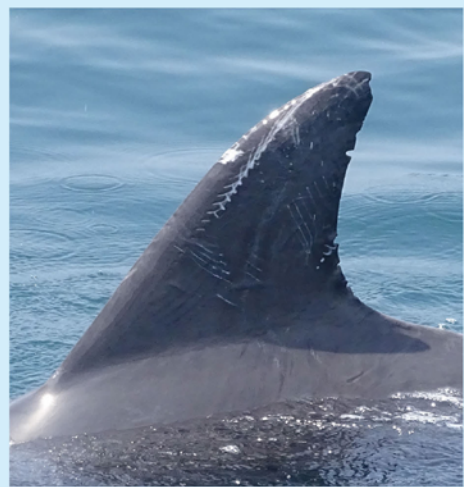


#32



#33





#45



#47



#48



#66



#72



#78



#94



#119



#121



#122



#126



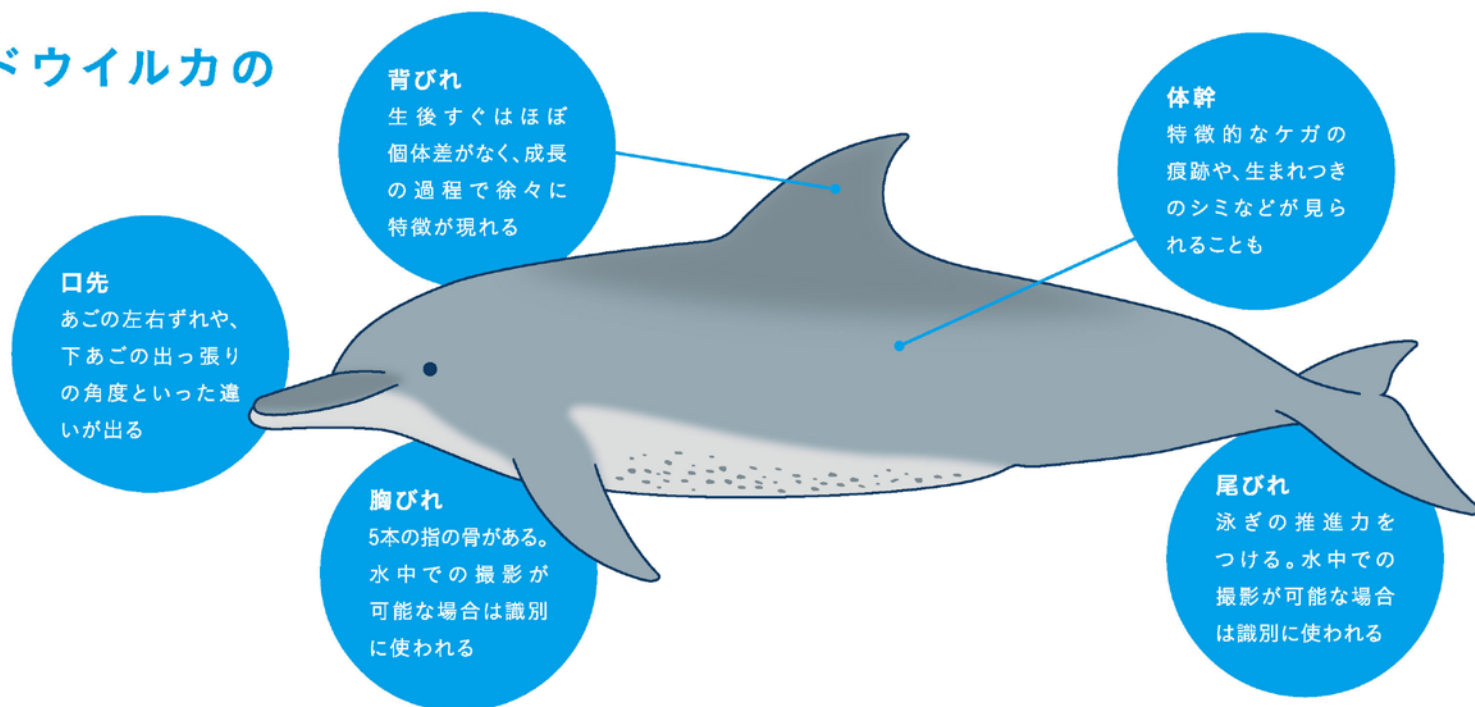
2023年出産

#129

## 天草のミナミハンドウイルカの 個体識別ポイント

**一般的なイルカの個体識別**  
ケガなど大きな変化が出やすい背びれをはじめ、主に5つのポイントで識別します。軽いひっかき傷や噛み傷などに由来する白い線は消滅するため、個体識別の要素にはなりません。

**天草イルカ調査室の個体識別**  
船上から個体識別するため、水面に現れる頻度の多い背びれを中心に、口先や体幹などの特徴で識別します。



**個体識別の器材について**  
広めの画角で個体全体を観察し、背びれ・口先・体幹などの特徴が現れる部位にピントを合わせた撮影も行うため、ズーム機能のついた高解像度カメラを使用します。



**ミナミハンドウイルカについて**  
国内の水族館で見るハンドウイルカと似ていますが、それよりやや小型で細長く、口先(吻/ふん)が長め。加齢に伴い、白い腹部に黒い斑点が現れます。  
体長 1.8~2.7m  
体重 175~200kg  
寿命 オス40才以上、メス50才以上と長命  
雄雌 オスがやや大きい、違いはわずか  
妊娠 妊娠期間は1年  
出産 出産シーズンは春~夏

**天草のミナミハンドウイルカについて**  
150~200頭前後でひとつの群れをなして定住し、有明海で生涯を過ごします。人間の生活圏内に生息し、地域と共生しているのも特徴です。

